



生きる力を育む「さとやま体験」

広島県庄原市

問合先

広島県庄原市さとやま体験交流協議会

TEL.0824-75-0173 FAX .0824-75-0172 〒727-0021 広島県庄原市三日市町4-10
mail : kanko@shobara.net

1 協議会の概要

行政がリーダーシップを発揮する 官民連携体制

- ・市全体で安心・安全の受け入れを実施
- ・探求学習プログラムへの対応

構 成 庄原市役所 会 長 庄原市副市長
庄原観光推進機構(庄原DMO) 事務局 庄原市商工観光課
庄原市教育委員会 庄原観光推進機構
庄原市自治振興区連合会

1校1校に丁寧な対応 プログラムのカスタマイズも可 受入可能人数80名(民泊軒数25軒)

年 度	受入校・生徒数	内 訳
平成28年～ 令和5年	29校 4,257名	関西中学11、関東中学1 関西高校4、関東高校10 中国中学1、九州中学1、海外1
令和6年	6校 229名	関西中学4、関東中学1 関東高校1
令和7年	1校 35名	関西中学1

庄原での魅力

都市生活とのギャップ (3密のない暮らし) ～新たな気づき価値観～

西日本最大級の面積に、人口約 30,000 人が暮らす庄原市。密集のない環境は、都市部の子どもたちにとって大きなギャップがあり、普段とは異なる環境の中で、昔から受け継がれる文化や知恵、心の豊かさなどに触れることにより、新たな発見や気づきに出会うことができます。



持続可能性 (サステナビリティ) への挑戦 ～社会貢献への第一歩～

全国に先駆けて、過疎高齢化が進む中国山地においては、自治振興区をはじめさまざまな団体が、地域の存続および活性化に向けた取り組みを展開しています。

地域課題に対するまちづくりを直接学ぶことで何気ない日常の中に課題意識や問題意識が芽生えSDGs や社会貢献活動等への関心が高まります。



2 庄原市へのアクセス

中国地方の真ん中

広島・福山・出雲への所要時間 各90分



バス		
広島駅	約100km (80分) 広島道→中国道	庄原IC
福山駅	約85km (80分) 広島道→尾道道→中国道	
岡山駅	約145km (120分) 中国横断道→岡山道→中国道	

バス		
原爆ドーム	約100km (80分) 広島道→中国道	庄原IC
宮島口	約110km (90分) 広島道→中国道	
長崎IC	約490km (340分) 中国横断道	

2025年4月1日現在

人口 30,791人

面積 1,246.49km²

日本の原風景が残る里山共生都市



県内最大級の農業のまち

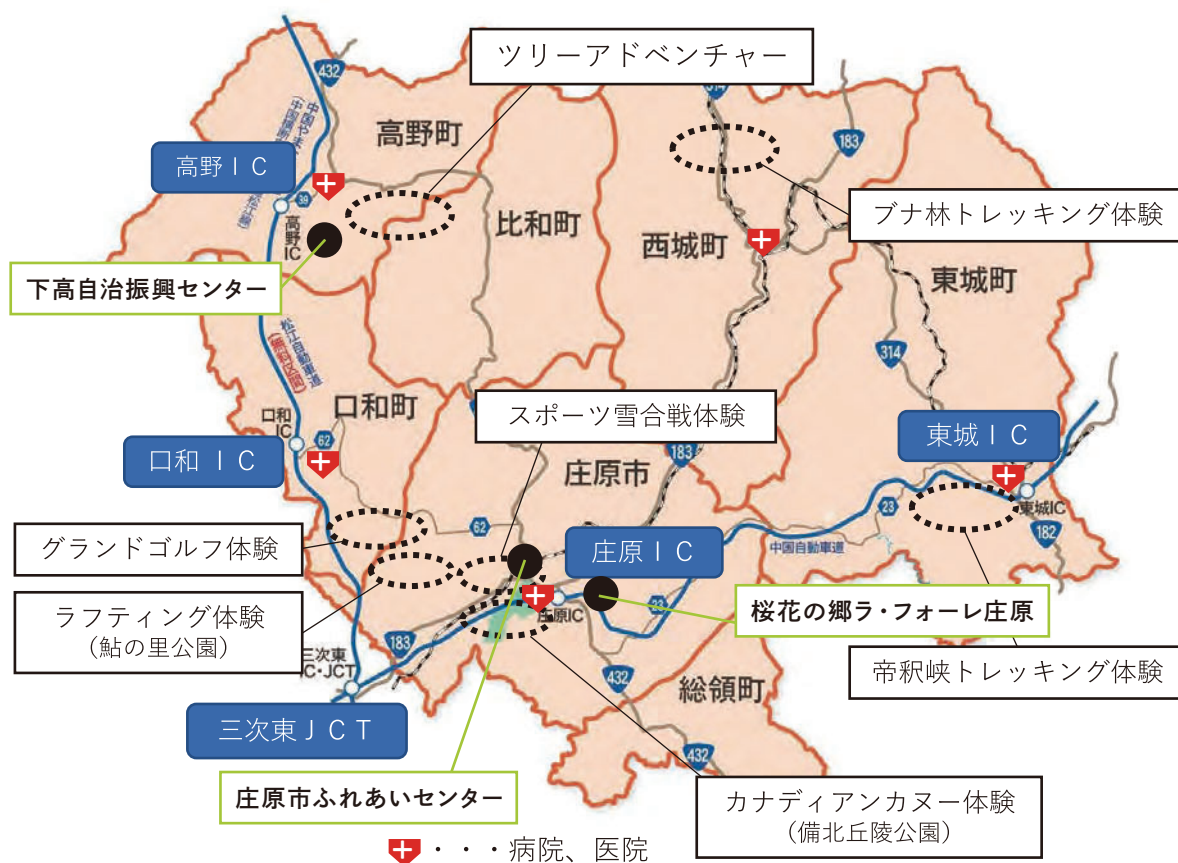


3 受入地域・体験MAP

【一部非表示のプログラム】

クラフト体験等の場所を選ばないプログラムについては他のプログラム開催場所を勘案して実施いたします。

※グラウンドゴルフやスポーツ雪合戦(屋内)については体験実施箇所が複数ございます。インストラクターや他のプログラムを考慮し、開催場所を決定いたします。



体験プログラム一覧表

プログラム名	時間	人数
1. ラフティング	3.5h	80名
2. 帝釈峡トレッキング	3h	40名
3. ブナ林トレッキング	3.5h	40名
4. ツリーアドベンチャー	3h	40名
5. スポーツ雪合戦(室内)	3h	40名
6. カナディアンカヌー	3h	40名
7. グラウンドゴルフ	3h	40名
8. サイクリング	3h	20名
9. 環境保全プログラム	4h	40名
10. 食品ロス削減プログラム	4h	40名
11. SDGs 散歩	4h	80名

対面式・お別れ式会場

名前	住所
桜花の郷ラ・フォーレ庄原	庄原市新庄町5281-1
庄原市ふれあいセンター	庄原市西本町4-5-26
下高自治振興センター	庄原市高野町下門田8

【体験内容の例】

野菜の栽培・収穫、家畜の世話、草刈り、郷土料理作り、
まき割り、手芸体験、星空観察、里山散策 など

※家庭や季節によって食事や体験内容は異なります

※お客様ではなく「家族の一員」として過ごし、家庭での仕事を
手伝っていただきます

生徒さんの声

- ・地域の自然がそこに住む人の文化や生活に深く関わっていると知った。
- ・最後には祖父母の家のような安心感を感じられ、自分の祖父母に久しぶりに会いたと思った。
- ・年を取ったら田舎で暮らしてみたいと思いました。

民泊・家業体験
の流れ（一例）

※1泊2日の場合

1
日目

13:30	入村式
14:00	各家庭へ移動
14:30	家業体験
17:30	夕食作り（共同調理）
19:00	夕食、片付け、お風呂
22:00	就寝

2
日目

6:30	起床
7:00	朝食作り（共同調理）
8:00	朝食、片付け
8:30	ふりかえり
9:00	離村式会場へ移動
9:30	離村式・見送り



入村式で民泊家庭と対面



家業体験（ヤギの世話）



民泊家庭との夕食・団らん



家業体験（イチゴの収穫）

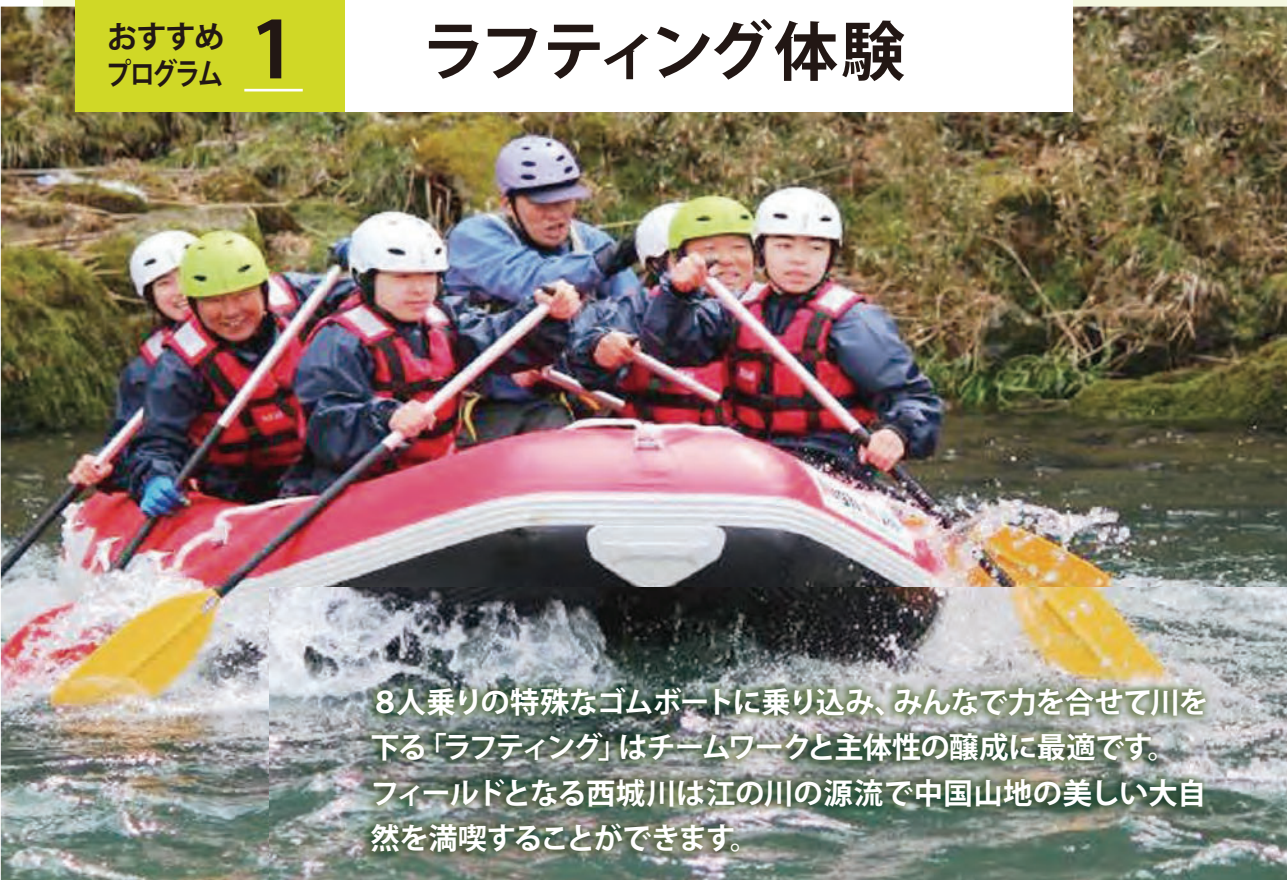


家業体験（農作業）



離村式・見送り

ラフティング体験



8人乗りの特殊なゴムボートに乗り込み、みんなで力を合せて川を下る「ラフティング」はチームワークと主体性の醸成に最適です。フィールドとなる西城川は江の川の源流で中国山地の美しい大自然を満喫することができます。

期待される教育効果

- ◇全員で力を合せて川を下ることによる、チームワークと主体性の醸成
- ◇舟運やたたら製鉄の名残など歴史的背景から先人の知恵を学ぶ
- ◇大自然に親しむことによる、環境保全への関心と理解の向上

タイムスケジュール（例）

12:00	鮎の里公園集合、着替え、準備体操
12:30	バス移動(車内にて注意事項確認)
12:45	スタート地点着、準備
13:00	ラフティング体験開始
15:00	ラフティング体験終了、まとめの会
15:10	片づけ、着替え
15:30	プログラム終了

- 体験会場 西城川(約3km)
- 最大体験人数 80名
午前・午後の分割で160名まで可
- 時期 4月～11月

【注意】天候や川の水位によって距離の変更や他プログラムに変更となる場合があります。



おすすめ
プログラム **2**

ブナ林トレッキング



国の天然記念物に指定されているブナの原生林をフィールドに自然観察しながら散策します。
自然災害が多発する近年において、森が担う役割や私たちのくらしとの関係について学び、自然環境の保護や活用について理解を深めるプログラムです。

タイムスケジュール（例）

12:00	会場集合（ひろしま県民の森）
12:10	安全確認、注意事項伝達
12:20	トレッキング出発、ブナ林観察
13:50	折り返し地点到着、休憩
14:10	トレッキング再開
15:30	下山、まとめの会、プログラム終了

- 体験会場 比婆山（ひろしま県民の森）
- 最大体験人数 40名（1班10×4班）
- 時期 4月～11月



おすすめ
プログラム **3**

スポーツ雪合戦in室内

団体で行うスポーツ雪合戦は、リーダーシップや役割分担などチームワーク醸成に必要な要素が含まれており、戦略戦術性に長けたプログラムとなります。
庄原市は全国でも有数の強豪地区であり、日本選抜のメンバーも在籍しています。



タイムスケジュール（例）

12:00	会場集合、着替え
12:20	競技説明、安全確認、注意事項伝達
12:40	チーム戦略 T I M E
13:00	スポーツ雪合戦開始
14:30	スポーツ雪合戦終了
14:40	着替え、片づけ、まとめの会
15:00	プログラム終了



- 体験会場 市内の運動公園他 ※屋内の場合体育館等で実施
- 最大体験人数 160名 ※屋内の場合40～80名（会場により異なる）
- 時期 1月中旬～2月 ※屋内の場合通年で実施（体育館内で実施）

4 庄原市の魅力と課題SDGs探究学習テーマ

新学習指導要領の改訂で従来からの「生きる力を育む」に加えて「主体的・対話的で深い学び」の視点から特別教育活動、とりわけ修学旅行等で、その実現に向けての期待が高まります。主体的に事前、事後学習を行うことに加え、現場での対話的な体験学習により狙いの深い学びとなります。旅行先での学習のテーマは地域事情に合致したものでなくてはなりません。地域の魅力と課題を示すことにより主体的なテーマの選択が可能となります。

魅力

1 日本の原風景

たたら製鉄によって形成された棚田や築100年を超える古民家、豊かな自然・美しい里山の景観に囲まれ、日本の原風景を感じられる。

2 都市部とのギャップ

密集のない生活や自然と共生する里山の暮らし、地域のコミュニティなど普段の生活では感じられない、新たな発見や気づき、学びに出会える。

3 持続可能性への挑戦

過疎高齢化が進む中国山地で、地域の存続を目的に、住民を主体としたさまざまな取り組みが展開され、地域課題に対するまちづくりを学べる。

課題

1 里山景観の維持が困難

人口減少により、農地・山林の保全管理が困難になり、里山特有の自然環境が失われ、自然とのバランスが崩れつつある。

2 暮らしの質の低下

少子高齢化による人口減少により、地域での助け合いをはじめ、商業（買い物）・医療・教育・交通等の生活インフラの維持が困難になっている。

3 地域活力の低下

人口減少や高齢化に伴い、生産年齢人口が少なくなり、地域の活気が失われている。伝統的な祭りなども若者層の減少により継承が困難になっている。

庄原から森林再生！森づくり体験



プログラムの目的

庄原市をはじめとした山間地域では、良質な水を供給し、保水能力があるとともに、生態系を維持する役割を果たしている森林の荒廃により、里山特有の自然環境が失われ、人と自然とのバランスが崩れつつあります。特に近年では局地的豪雨による土砂災害などの被害が深刻化しています。

このような森林の荒廃を食い止め、持続可能な生態系を再生させるにはどうすればよいか、現地での体験等を通じて、ともに考え、取り組むことを目的としています。

取り組み概要

- ・荒廃した森を間伐作業などによって再生させ、森の保水力の回復と生態系の維持を図る
- ・間伐材の活用に取り組むことにより、限りある資源の有効活用による循環型社会の形成と環境保全意識の醸成を図る
- ・都市部の若者が農村で森林保全の活動をするることにより、都市部と農村部間の経済、社会、環境面における強靱なまちづくりに向けた相互連携に取り組む

教育効果

- ◇山間部の現状を肌で感じ、森林の役割に対する理解を深めそれを保全することの大切さを学習します
- ◇地域課題を考察し、解決策を導き出すことで、課題解決能力の醸成、地域貢献のあり方を学びます。
- ◇事前学習から発表までの一連のプログラムにより「思考力・判断力・表現力・提案力」を養います。
- ◇現場での作業体験等を通じて安全対策や危機管理能力を養います。



▼プログラム一連の流れ

①事前学習	中山間地域での現状と課題を学ぶ
②現地説明	担当者から現地で概要や課題の説明
③現地体験調査	インストラクターの指導のもとで現地体験や実態調査等
④感謝状	市から感謝状の贈呈
⑤学習内容の発表	学習した成果のまとめや問題解決について生徒から発表

▼現地でのスケジュール

9:00	体験会場(会議室)へ集合、装備品の着用
9:15	当市の現状や問題点等を説明
9:35	安全確認(体調等)、事前講習
9:50	実施フィールド(森林内)へ移動
10:10	体験開始(間伐作業等)
12:10	体験終了、体験会場(会議室)へ移動
12:30	体験の振り返り、まとめ
13:00	プログラム終了

■体験人数 40名

■時間 4時間

■時期 5月～11月



プログラムの概要・目的

現在、日本での食品廃棄物は2,800万トン／年を超え、そのうち、食品ロスは600万トン／年を超える規模となっています。これは、世界全体での食糧援助量の約2倍に相当し、飢えに苦しむ人々がいる一方で、貴重な食糧源が大量に廃棄されているという大きな問題を抱えています。

庄原市においても農作物（規格外）の廃棄による経済損失は計り知れず、こうした流れに歯止めをかけるべく、規格外農作物の利活用を中心に食品ロス対策、および所得向上への活動が盛んに行われています。

このプログラムでは、規格外農作物の廃棄加工状況を学び、また、捨てられるはずだった農作物を加工して利活用する取組を体験することにより、持続可能な生産消費形態の構築に向けた意識の醸成を目的としています。

取組みの効果

- ・規格外農作物の利活用を考え、食品ロスの問題点を学ぶ。また規格外農作物の加工利用の活動を行っている様々なメンバーと協同して取り組むことにより、文化・習慣・価値観など多様性に向き合い、他者の持つ視点・価値観を理解する能力を養う
- ・生徒個々が今からできるSDGsとして、残飯量の削減や消費期限の短い物を購入したり、廃棄食品にならない為の冷蔵庫内食材の消費期日確認など、日常生活で継続して行うことができる活動として取り組む



- ・食品ロスに対する意識変革により、未来の地球社会を創る担い手として、主体的に活動する市民を育成する

▼プログラム一連の流れ

①事前学習	国内外における食品ロスの現状を学び利活用（加工食品）を考える
②現地説明	担当者から現地で概要や問題点の説明
③現地体験調査	インストラクターの指導のもとで現地体験や実態調査等
④感謝状	市から感謝状の贈呈
⑤学習内容の発表	学習した成果のまとめや問題解決についての取組み概要を生徒から発表

▼現地でのスケジュール

9:00	体験会場へ集合、グループ事に整列
9:10	オリエンテーション（プログラムの流れ、注意事項など）
9:15	当市の現状や問題点等を説明
9:45	規格外農作物の確認
10:15	加工食品づくり
12:15	加工食品の試食
12:30	体験の振り返り、まとめ
13:00	プログラム終了

■体験人数 40名

■時間 4時間

■時期 5月～11月

（雨天決行／荒天時は屋外での作業は中止）

■留意点 事前学習による想定および事前・事後学習が必要となります



プログラムの概要・目的

持続可能な社会を目指していくために、世界各地でSDG s 17のゴールに向けた取り組みが行われています。テレビや広告などでは日々、SDG sに関連する事項が取り上げられており、都市部においては特に身近なモノとなっています。

一方で、田舎の住人たちは未だSDG sという言葉を知らない人も多いですが、昔からの生活の知恵の中には（例えば、廃材を活用してお風呂を焚く・モノを大切に再利用する等）多くのSDG s 17のゴールに関連する取り組みがなされています。

地域を散策しながら、何気ない当たり前の習慣・取り組みが、持続可能な社会を形成する要因であることを発見しながら、SDG sについて学びます。

取り組みの効果

- ・身近にあるSDG sの取り組みをテーマとして学ぶことによって、日常生活の中でSDG sを心掛けようとする意識が定着し、未来の地域社会を創る担い手として、主体的に活動する市民を育成する。
- ・フィールドワークを通じ、地域資源を発掘してSDG sとの関連性を考察していくことによって、思考力や表現力を強化し、社会力（社会に適応しているだけでなく、社会を作り、作り変えていく能力）のある人材を育成する。



- ・地元住民との意見交換やグループワークなどで他者との意見の相違を受け止め、多様な価値観を理解・受入れることによって、俯瞰的な視点を養う

■体験人数 80名

■時間 3～4時間

■時期 4月～11月

（雨天決行／荒天時は屋外での作業は中止）

■留意点 事前学習による想定および事前・事後学習が必要となります

▼プログラム一連の流れ

①事前学習	身近にあるSDG s 17のゴールを考える
②現地説明	担当者からプログラムのポイントを説明
③現地体験調査	インストラクターと一緒に地域の可能性を探る
④学習内容の発表	学習した成果のまとめや問題解決についての取り組み概要を生徒から発表

▼現地でのスケジュール

9:00	体験会場へ集合
9:10	オリエンテーション (プログラムの流れ、注意事項など)
9:15	当市の課題や特色を説明
9:30	SDG s 散歩 ～持続可能な取り組みを発見する～
11:00	グループワーク 可能性の取りまとめ・発表
13:00	プログラム終了

5 宿泊施設 | 桜花の郷ラ・フォーレ 庄原

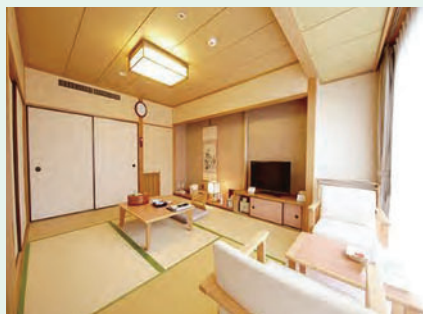


やまなみに沈む夕日が美しい温泉ホテル！

部屋タイプ (全62室)

- ・和室42室 (6畳、8畳、10畳)
- ・洋室20室 (シングル、ツイン、バリアフリー対応)

定員 200名



【宿舎】桜花の郷ラ・フォーレ庄原

〒727-0004 広島県庄原市新庄町 281-1
TEL: 0824-73-1800 FAX: 0824-73-0100

6

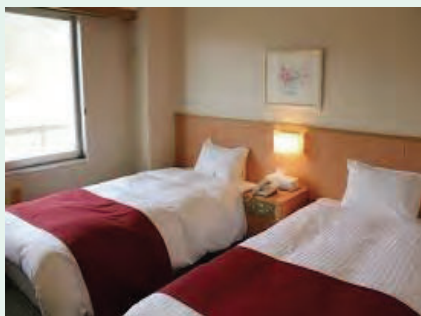


美しい風景を織りなす自然溢れるホテル！

部屋タイプ (全41室)

- ・和室21室 (8畳、10畳)
- ・洋室20室 (ツイン)

定員 170名



【宿舍】 休暇村帝釈峡

〒729-5132 広島県庄原市東城町三坂962-1
TEL : 082447-2-3100 FAX : 082447-2-3112

7

安全管理／緊急連絡体制

【本部宿】桜花の郷ラ・フォーレ庄原

事務局員が本部宿舎に待機（～22時）。
夜間でも専用携帯により早急な対応が可能。
また、各地区には緊急時対応スタッフが待機。
有事の際には初動対応にあたります。

事故・トラブル発生

状況把握

連絡

119番

【本部】庄原観光推進機構
TEL. 0824-75-0173(代)

専務理事

庄原市企画振興部
商工観光課
TEL. 0824-73-1179

課長

協議会長
(庄原市副市長)

庄原市長

手配

現場へ

情報共有

車両で移動

協議会の

現場へ

情報共有

保護者

庄原警察署 0824-72-0110
庄原消防署 0824-72-9911
北部保健所 0824-63-5181

【救急指定】

庄原赤十字病院 0824-72-3111
西城市民病院 0824-82-2611
東城病院 08477-2-2150

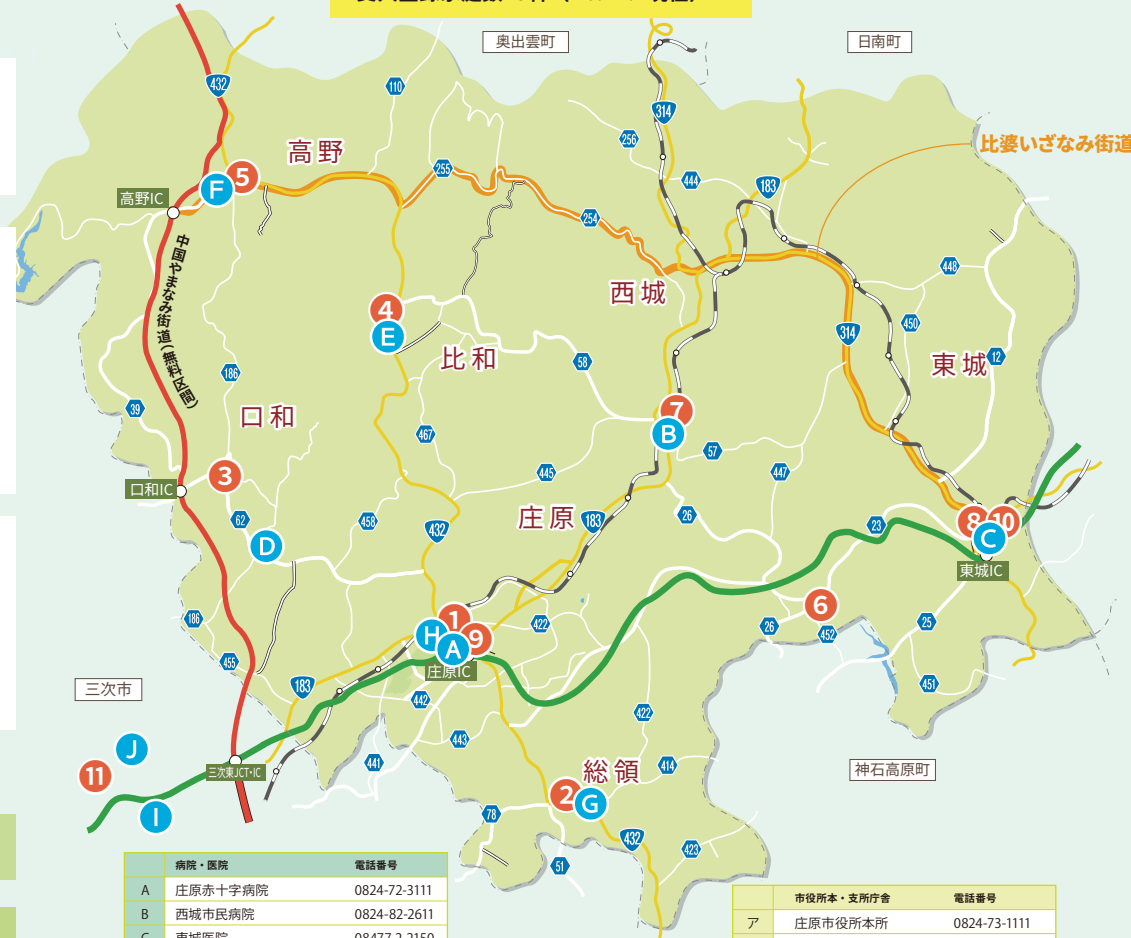
【二次救急】

三次中央病院 0824-65-0101
三次市救急センター 0824-62-1103

【本部宿】

TEL：
学校責任者
TEL：
旅行添乗員
TEL：

受入登録家庭数25軒（R6.12.1現在）



事故及びトラブル発生現場確認 関係機関・学校・本部と協議の上、対応を検討